

# 1 支援のポイント

## (1) 子どもを理解しましょう



### ① 実態把握

- ・ 障害の状態や健康状態の把握
- ・ 日常生活や学習上の運動・動作の困難と配慮事項の把握
- ・ 子どもの長所やできることなど、よい面に目を向けた実態把握

### ② 信頼関係づくり

- ・ 子どもの視点に立った教育的ニーズの把握
- ・ 子どもの気持ちに寄り添い、達成感を味わえるような支援の工夫



2 実態把握について P 3

## (2) 安全に楽しく活動するための環境を整えましょう

### ① 生活環境

- ・ 子どもが活動するための動線の確保  
(車椅子、歩行の妨げになる物を置かない、できる限り段差をなくす等)
- ・ 手洗い場所やトイレ、階段、着替え場所、ロッカーの高さなど子どもが使いやすいような工夫
- ・ 学習活動、休憩等を効果的にできるような場所の設定  
(畳やじゅうたん、ソフトマットなどのスペース)



### ② 学習環境

- ・ 座位姿勢が安定する椅子、作業能力が向上する机など個々の子どもに合わせた工夫
- ・ 筆記用具等の補助具や補助的手段の工夫、子どもに合わせた教材の準備やICT機器等の活用



5 学習面について P 10



6 日常生活面について P 14

### (3) 一人一人に合わせた工夫や配慮をしましょう

#### ① 指導の工夫

- ・子どもの実態を考慮した指導体制（個別、グループ別、交流級など）の検討。
- ・子どもの実態やねらいに配慮した教材・教具の開発や工夫

#### ② 学習内容の配慮

- ・一人一人がもてる力を発揮できるような学習内容の工夫
- ・運動・動作の制限による経験の不足を補うための体験的な学習
- ・子どもの自主性を発揮できるような学習内容の工夫



3 教育課程について P 5



4 自立活動について P 7

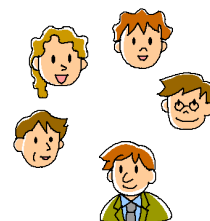
### (4) 連携を大事にしましょう

「個別の教育支援計画」を活用しましょう

「個別の教育支援計画」は各関係機関との連携のツールとなります

#### ① 保護者との連携

- ・保護者の気持ちを共感的に理解しようとする姿勢
- ・子どもの成長を実感してもらうための工夫
- ・家庭の役割や協力への意識付け



#### ② 医療との連携

- ・保護者の同意を得て、医療機関（主治医、リハビリ等）からの情報収集



2 実態把握について <本校における実態把握のポイント> P 4

#### ③ 校内での連携

- ・子どもの実態や対応についての共通理解
- ・子どもや担任を支える校内支援体制づくり

#### ④ 関係機関との連携

- ・福祉サービスを利用している場合は、事業所からの情報収集
- ・受けられる福祉サービスや進路先についての情報収集



2 実態把握について P 3



8 進路・福祉サービスについて P 38